

# 民話から見る南予

1年1組 武内 聖佑 1年2組 桐島 和大  
1年2組 久保田真矢 1年4組 薬師寺知貴  
指導者 教諭 中川 彩矢

## 1 課題設定の理由

南予といえば、温和で陽気でおおらかな人が多く、海産物やみかんなどが有名である。しかし、私たちが持つ南予地域に対するイメージは本当に正しいものか。また、それ以外にも別の特徴はないのか。南予地域の特性を改めて見つめ直したいと考え、研究を始めた。その際、土地の人によって語り継がれてきた民話から傾向を捉え、南予の地域性を考察することにした。

## 2 仮説

宇和島市津島町には、とっぼ話という事実にはホラを交えて面白おかしくした民話が語り継がれていることから、南予地域の民話には笑い話が多い傾向にあると考えられる。また、南予は自然豊かで水産業が発達していることから、笑い話以外にも自然に関する話が多いのではないかという仮説を立てた。

## 3 調査の方法

### (1) 方法

ア 文献調査…民話を読み、基準（以下に示す）に基づいて分類し、特徴を考察する。

#### 【民話の分類とその基準】

- |                                   |                       |
|-----------------------------------|-----------------------|
| ・ 言い伝え…文末が「～と言いつたえられる、だそうだ」で終わる話。 | ・ 神仏…神様、仏様、ご加護に関する話。  |
| ・ 自然…植物、水、山、川、海、が主体となる話。          | ・ 動物…動物が主体となる話。       |
| ・ 不思議…原因が分からない、普通ではありえない話。        | ・ 怪異…恐怖の対象が存在する話。     |
| ・ 由来…物事の伝っているところ、事の起こりにまつわる話。     | ・ 人物譚…ある特定の人物に関する紹介話。 |
| ・ 笑い話…朗らかになる話。たわいもない話。            | ・ 悲話…悲しい話。哀れを催させる話。   |

イ 聞き取り調査…愛南町文化財保護審議会会長藤田儲三氏による講演を聞き、調査する。

## 4 結果と考察

### (1) 結果

全 265 話を分類した結果、図 1 のようになった。全体の 26% を占めた「笑い話」と、数値の低かった「自然」、「神仏」を考察することにした。

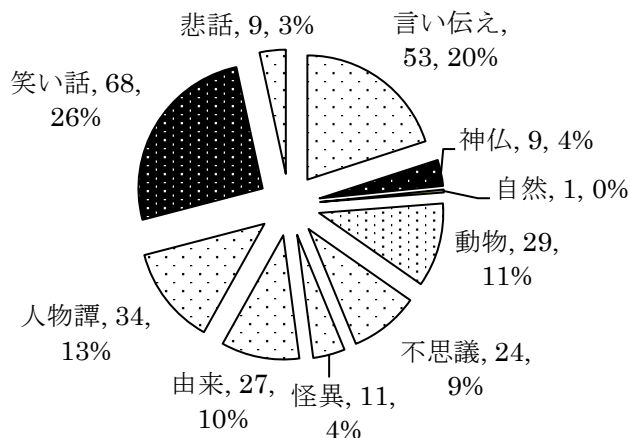


図1:民話の分類表



写真1:講演の様子

## (2) 考察

### ア 笑い話が多い理由

笑うことによって起こる利点には、がんに対する免疫力の向上や血糖値の上昇抑制、ストレスの低下、脳の活性化などがあげられる。つまり笑うことは心身に良いということだ。また、藩政時代の愛媛の生活を調べると、肉体的、精神的にも苦しいことが分かった。一揆数を全国と比較すると、他県では多くて1回起きる程度だったが、愛媛県では2回以上（武佐衛門一揆・内の子一揆）などが発生していた。このことから、愛媛県南予地域の人々は、苦しい生活を送っていたことが分かる。このような苦しい生活において精神的・肉体的ストレスにより、免疫力が低下し、病気になるという悪循環を南予地域の人々は意識しないままに笑いで乗り越えようとしていたとも考えられる。

### イ 神仏の民話が少ない理由

南予・中予・東予の神社・寺・神宮の数をまとめたものが、表1:愛媛県の神社・寺・神宮の数表1である。また、四国八十八か所の霊場の数については、愛媛県に26箇所存在するが、愛媛県の南予地域だけでは霊場の数は4箇所であることが分かった。

	神社・寺・神宮の数
南予	267 個
中予	344 個
東予	347 個

これらの結果から、南予地域に住む人たちの神仏に対する関わりの薄さを示していると考えられる。さらに、笑い話が多い理由の考察で挙げたように、南予地域の人々は自分の身に起きたことを笑い話として笑い飛ばしてしまおうとする性質があったため、神仏に頼ることが少なく、現代に神仏の民話が語り継がれにくかったのではないだろうか。

### ウ 南予に自然に関する話が少ない理由

中予・東予の自然に関する民話で調べてみると、中予・東予には多くの自然に関する民話が語り継がれていた。特に中予は池・海、東予は川・海に関する内容が多かった。そこでさらに愛媛の地形・地域を細かく見てみると、中予は池が内陸部(特に伊予市周辺)に多く存在していた。また、東予(特に西条市)には、川が多く燧灘から市街地に沿って川がいくつも流れていた。川が多いことで植物が育ち、生き物の発生につながったと考える。つまり、池や川のほうが海よりもテーマとして取り上げられやすかったのではないか。

## 5 まとめと今後の課題

三つの特徴の考察から、南予の地域性が見えてきた。南予地域の人々は生活が厳しくともその苦しさを笑い飛ばし、神仏との関わりが薄いために信仰心の向上につながらなかったことが成果として分かった。そして、海沿いにあるという地形の特色についても確認できた。今回調べたのは民話の中のごく一部にすぎず、他にもたくさんの民話があるはずだ。今後の課題としては、より多くの民話から検証を行うことである。

民話は根拠のない作り話などではなく、その地域の当時の様子や人柄、歴史を今に生きる私たちに教えてくれるものだと思った。若い私たちは高齢の方々から話を聞くという事はあまりない。しかし、私たちが語り継がなければ民話の存在は消えてしまう恐れがあるのではないか。

## 参考文献

- ・和田良譽, 平成2年, えひめブックス 空飛ぶホラ - 南予トッポ話 -
- ・秋田忠俊, 平成2年, 愛媛の伝説 昔話・トッポ話案内
- ・下川清・福田昇・松本孝三, 昭和57年, 日本伝説大系 第十二巻 四国編
- ・武田明, 昭和49年, 日本の民話 18 讃岐・伊豫篇, p 267,268,447